

# 令和3年度 第1回 大阪市立大学 学長選考会議 会議録

日 時 令和3年10月18日（月）15時00分～15時45分

場 所 健康科学イノベーションセンター

出席者 外部委員（経営審議会委員）：大西委員（オンライン）、土屋委員、福島委員

内部委員（教育研究審議会委員）：平田委員、櫻木委員、橋本委員

## 議 事

### 1 議長等の選出について

事務局から、公立大学法人大阪定款第11条第7項に基づき議長の選出を行う必要がある旨の説明があり、委員の互選により福島委員が議長として選出された。

後ほど審議される学長選考会議規程（以下、「選考会議規程」という。）第5条第3項に規定されている職務代理者について、福島議長から土屋委員が指名された。

### 2 会議の運営について

福島議長より、会議の公開・非公開について、忌憚のない意見交換を目的として非公開とするが、選考過程の透明性を図るべく、議事録については大学ホームページに掲載することが確認された。

### 3 学長選考規程等の制定について

事務局より、学長選考会議規程（以下「選考会議規程」という。）、学長選考規程、学長の任期に関する規程及び学長解任規程の制定について説明があった。

審議の結果、オンライン出席を可能とすることを明文化するよう選考会議規程を一部修正することとした。

### 4 学長選考対象者の選定について

事務局より、これまでの経過として、昨年度に開催された新大学学長予定者推薦会議（以下「推薦会議」という。）において、大阪公立大学学長が市立大学・府立大学の学長を兼務することを想定して議論していたこと、また、昨年7月に開催された新大学推進会議において、「学長、研究科長等の新大学・旧大学の兼務について」理事長より説明があり承認されたことについて説明があった。

福島議長より、大阪公立大学と市立大学・府立大学を一体として機能的に運営し、発展させていくためにも大阪公立大学学長予定者である辰巳砂昌弘氏を選考対象者とするこ

とについて提案があり、各委員の意見を聴取し、全会一致で承認された。

なお、各委員の意見は以下のとおりである。

- ・辰巳砂学長には、新大学学長予定者として開学にかかる準備に尽力いただいております、市大・府大の統合を進めるにあたっては、新大学の学長が両大学の学長を兼ねることがふさわしいと考える。
- ・残る市大の学生にとっても、新大学学長が兼ねる方が安心だと思う。人格が分かると、対立する恐れもあるかもしれない。対内的にも対外的にも、辰巳砂学長のこれまでの実績から考えても辰巳砂学長が兼務することがふさわしいと思う。
- ・昨年度の推薦会議でも、市大在学に対するケアについても伺っていた。それから、2022年度以降も市大・府大の学生は残るものの、実質的には一つの組織として大学の運営が行われることになる。そのため、市大も新大学の学長である辰巳砂学長に運営いただくのがいいのではないかと考える。
- ・辰巳砂学長の研究者として教育者としての長い期間の実績と、2019年度以降の府大学長としてご尽力されてきた実績、それから新大学学長として選出されて以降は両大学を一体化しようと対内的にも対外的にもご尽力されてきた。これらの実績をみてもふさわしいと思う。また、両大学を一体化するためにも辰巳砂学長に兼務いただくのが適切だと思う。
- ・昨年度の推薦会議においても、新大学学長が市大・府大の学長を兼務することを前提として辰巳砂学長を選出した経緯もある。実績も十分であることを分かっている。2022年度以降は形式的には3大学であるが、実質的には一つの組織となるので兼務いただくのがふさわしいと考える。

## 5 学長選考日程について

事務局から、資料に基づいて、選考対象者に対して11月末を期限として所信表明の提出を求めること、12月初旬に次回の選考会議を開催し、所信表明を審査のうえ学長予定者を決定することについて説明があり、異議なく承認された。

## 6 所信表明に記載を必要とする項目について

事務局から、資料に基づいて、所信表明に記載を必要とする項目（案）について説明があり、意見交換の結果、以下のとおり決定した。

### ・記載を必要とする項目について

- (1) 大阪市立大学の歴史と伝統、これまでの戦略をどのように認識されているか。
- (2) その認識を踏まえて、大阪公立大学の運営と整合性をとりながら、どのように大阪市立大学を運営しようと考えているか。
- (3) 大阪市立大学の在学に対する教育カリキュラムを保証し、卒業まで安心して学ぶ

ことができる環境をととのえることについて。

なお、所信表明書は選考過程において学内公表することとし、決定後は学生及び教職員に対して所信を表明する会を開催することとした。また、学外への公表にあたっては、市立大学学長予定者決定という内容だけに留めるのではなく、大阪公立大学の戦略的な広報につながるよう工夫することについて意見交換を行った。

**【備考】**

オンライン会議システムを併用した選考会議は、適宜的確な意見交換が互いにできる状態であることを確認しており、終始異状なく議題の審議を終了した。